



# THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH

## Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Show Rotary Cares・『ロータリーの心を』  
1997～98年度・国際ロータリーテーマ／グレンW・キンロス会長

「ロータリーの原点」に立ち『新鮮な眼でクラブライフを』  
1997～98年度・東京新南ロータリークラブテーマ／武下 朗会長

### ◎本日の例会

9月26日／第529回例会

### □卓話 「日本の経営倫理－企業の実践について－」

日本経営倫理学会会長 神奈川大学教授 **水谷 雅一氏**

### ◎先週報告

9月19日／第528回例会

### □親睦活動委員会報告 (高須委員長)

#### ○火曜会のご案内

10月火曜会を10月7日(火) 17:30～全日空ホテル37Fアストラルにて開催致します。パネラーとして関征春会員(94～95年度親睦活動委員長)より、「ヒト、人と出会い中。」のテーマでお話しをして頂きます。大勢の方々のご参加をお待ち申し上げます。

#### ○親睦旅行会のご案内

恒例の親睦旅行会を秋のバス1泊旅行で計画致しました。秋の福島、紅葉の大自然……磐梯・五色沼と歴史の街……会津を訪ね、大いに親睦を深める旅行会ですので、新しい会員の皆様をはじめ、奥様お誘いの上、奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

日 時 1997年11月9日(日)～10日(月)

行 先 福島(五色沼、磐梯高原、会津若松)

宿泊先 ホテルグランデコ(裏磐梯)

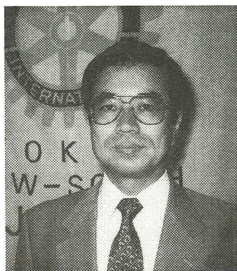
※お申込みは、10月17日(金)まで、どうぞお早めに!

□慶事披露 ●お誕生日祝／杉山好一郎君(9月15日) 田辺賢三君(9月22日)

□出席報告 ●会員72名・出席52名・欠席20名

ビジター(3名 敬称略・順不同)／磯野道造(東京山の手)、川越敬生(東京芝)、品川正治(東京新橋)

### 新会員のご紹介 (97年9月19日ご入会)



### オ ヤ マ ヒ ロ ト 君 大 山 啓 人 君

生年月日 1953年2月13日生(44歳)

事業所 三愛真珠株式会社

役 職 代表取締役専務

所在地 〒108 港区白金台1-1-50 都ホテル東京内

T E L 3440-3161 F A X 3445-4616

職業分類 宝石販売

住 所 〒108 港区三田4-17-17-409

T E L 3441-1102

推 薦 者 宮本正祥君、下村渥氏(東京南RC)



9月19日 9件 54,000円  
97～98年度累計 578,432円  
多額のご寄付を有難うございます。  
(敬称略・順不同)

林 有厚(東京ドーム社長、東京本郷RC)／先週(9/12)例会で卓話をして頂きました時のお車代全額を、ニコニコBOXにご寄付いただきました。田辺賢三／満81歳となりました。誕生日のお祝いを有難うございました。杉山好一郎／関さん、お世話になりました。誕生日ありがとうございます。小杉修造／同じヘルスクラブのお仲間の大山さんの入会、お目出とうございます。保森 登／牧野さんの笑顔を拝見して。柴藤清三郎／京都でのメイキャップが続きましたので。荒木昭文／渡部一元さん有難うございます。斉藤茂之さん写真有難うございます。牧野吉郎／昨年同日に一緒に入会した谷さんに敬意を込めて。谷 義一／皆様のお陰で本日のニコニコ担当もホットして、多少ニコニコしております。皆様御協力ありがとうございます。

### ◎次週予告

10月3日／第530回例会

### □クラブ創立11周年記念例会 (1986年10月3日創立)

### □R1第2750地区 岩 井 敏 ガバナー公式訪問

◇ガバナー・会長・会長エレクト・幹事懇談会 / 9:30～10:30 孔雀の間(1F)

◇第3回クラブ協議会 / 10:30～12:00 青雲の間(B1)

テーマ「職業奉仕からみた“企業倫理の現状”」

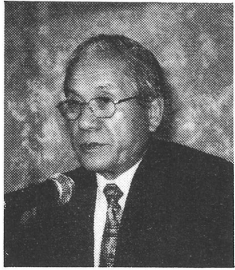
◇例 会 / 12:30～13:30 八雲の間(B1)

卓 話 公式訪問に際して ガバナー 岩 井 敏 氏 (東京京浜RC会員)

### 第3回クラブセミナー「地域社会調査活動の中間報告」

9月19日/第528回例会

96～97年度地域社会調査委員長 渡邊 治



**1.発足の背景** 1995年7月14日の理事会承認とともに発足。背景は大きく云って2つある。第1は1992年規定審議会で採択された決議92～286「社会奉仕に関する1992年の声明」の中ですすめられている項目（「地域社会における奉仕の機会を定期的に調査し、各クラブ会員に地域のニーズを

検討させること」）の実行であり、第2は、従来社会奉仕委員長の秀れた手腕によって半ば個人的、直観的に行われてきた社会奉仕の案件発掘方式を今後はより長期的、より組織的な調査の積上げをベースに案件を組成していくという新しい手法に切替えることにより、社会奉仕委員長の負担軽減と、より地域に密着した案件の発掘を可能にせんとする考え方である。

**2.クラブ細則との関係** 細則には記載されていない。当委員会活動の定着をまって細則変更を考える。

**3.組織** 組織的には社会奉仕委員会に属する小委員会であるが、他の多くの小委員会同様「小」の文字は省略する。

**4.委員会のあり方** 委員会内の論議で以下につき合意を見た。

(1)永続性：1年、2年の活動ではない。継続するところに意義がある。

(2)活動内容：活動の範囲は調査活動に限られる。調査の対象は社会奉仕の分野に限られる。奉仕の実践は対象外。

(3)調査期間：1年単位の調査結果にこだわらない。複数年に亘る調査の上、はじめて結果を取りまとめても一向構わない。

(4)情報・資料等の整理、引継ぎ：収集した情報・資料は整理して、次期委員会に引継ぐ。この連続性に当委員会の大きな意味がある。

(5)調査結果の報告：できるだけ調査結果を理事会にレポートの形で報告することが望ましい。

**5.調査活動** 港区区役所、港区社会福祉協議会・ボランティア・センター、東京都社会福祉協議会、世田谷ボランティア協会等、各種福祉機関訪問時の詳細を記すことは不可能であるが、そこで学んだ2～3のことを記してみたい。

(1)港区区役所：訪問早々強烈な一撃を喰らった。福祉セクション関係者の言、「外部からの支援は有難迷惑である」と。その意味はこうである。「福祉六法」と云われるほど今日では福祉行政が多くの法律によって定められ、その実行が保障されているので（法内活動）、資金的にも人的にも必要なものはすべて予算措置が講ぜられている。外部からの支援はむしろ、法外活動が主体の民間福祉機関に向けられるべき、とのアドバイスであった。

(2)世田谷ボランティア協会：ここでのボランティア活動は、本来福祉活動だけに限定されたものではなく、むしろ「自ら体験し学ぶこと、それ自体がボランティア活動だ」ということを学んだ。従ってこの協会の活動は、福祉というよりは、むしろ青少年の体験学習とか、新しい

「まちづくり」といった分野を中心に展開されているように見受けられた。なお本協会の理事長は世田谷南RCの牟田悌三氏である。

(3)港区におけるボランティア活動の現状：港区のボランティア活動は3つの柱からなる。

1 個人ボランティア 1996年末現在登録済個人ボランティアは756名。活発な活動を展開している。

2 ボランティア団体 登録済団体数は1996年末で62団体。所属人員は7,600名余り。70%の団体が福祉関連。他は文化活動、国際交流等。

3 福祉施設 3つのカテゴリーあり。

イ 公的施設 港区立港福祉作業所等。

ロ 社会福祉法人 西麻布作業所他。

ハ 法人化されていない施設 風の子会、みなと工房等。

いずれも、景気減退のおりから、仕事の受注に苦勞されている。

**6.ボランティア活動のむずかしさ** ボランティア活動の実態を調べれば調べるほど痛感することは、われわれロータリアンにとって、時間的にも労力的にも適格なボランティア活動を見つけることは容易なことではないということだ。ボランティア・センターから出される月刊機関誌には毎号、ボランティアの支援を求める要望が数多く載せられているが、いずれも年配のロータリアンに適合したものと云えない。と云って適合した案件がない訳ではない。問題は需給調整の場が極めて限られていることである。換言すれば、需要と供給の双方について、適格な情報を提供し、両者を結び付けるものの存在が極めて重要だということになる。

**7.ボランティア活動とロータリー** ボランティア活動もロータリー活動も「個人自らがすすんで何かをする」ことを本質とする点では共通している。「何か」の内容は、前者にあっては「体験学習」であり、その範囲は極めて広範であるのに対し、後者にあってはいわゆる「奉仕の理想」の実践がその内容と云えよう。体験学習という概念はロータリーの「奉仕の理想」を包含するものであり、この意味で両者はかなり大きな共通項を持ち合わせているものといえる。ボランティア活動が即「個人で行う奉仕活動」と云われる所以である。

### 8.社会奉仕委員会の提案

(1)港区ボランティアセンター10周年に当り、11月8日、ボランティア大集合による一大交流イベントが開かれる。当クラブとして、どう関わっていくか、ボランティア助成事業とどう関連させていくか検討の要あり。

(2)当クラブ10周年記念事業としてのボランティア助成事業による助成団体（1996年度は7団体）との交流は、本年2月の「若樹会」会長による卓話が1回だけ。本年度の助成先を含め、何等かのサークル化の可能性を模索する必要あり。少なくともわれわれの体験学習のためのチャンネル作りという点で意義は大きい。

(3)クラブとして、また個人としてボランティア活動の場を提供してくれる受け皿として、福祉施設がある。その代表的なものとして、「風の子会」、「西麻布作業所」、「みなと工房」がある。「風の子会」にはすでに参加した実績を有するが、他の団体主催のボランティア・プログラムにも参加できるよう検討することが望ましい。

### 東京新南ロータリークラブ

会長：武下 朗 副会長：山下忠治 幹事：渡部一元  
〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階  
TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004

例会日●毎週金曜日 12時30分

例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

### <会報委員>

新保 國彦、荒木 昭文、廣瀬 哲久、  
青野 信次、宮川 弘信、開発 秀基、  
田中 武、小杉 眞史、川鍋 二郎、  
立林 英昭、吉田 用親、村山 公士  
(編集担当順)